



平成19年07月05日
内閣府
政策統括官（科学技術政策担当）

**「効果的な理解増進事業の実施のための手法開発に関する調査」
に係る成果の公表について**

科学技術振興調整費による調査研究「効果的な理解増進事業の実施のための手法開発に関する調査」の成果として、調査報告書及び活動の手引き（効果的な科学技術理解増進に向けて）を内閣府ホームページに掲載いたしましたので、お知らせいたします。詳細は別添資料をご参照下さい。

別添1： 「効果的な理解増進事業の実施のための手法開発に関する調査」の
成果概要とその公表について

別添2： 内閣府ホームページ掲載内容（参考資料）

別添3： 「効果的な理解増進事業の実施のための手法開発に関する調査」概要

以上

（問い合わせ先）

内閣府政策統括官（科学技術政策担当）付 横断的事項担当
渡邊、平山

電話：03 - 3581 - 9462（直通）

03 - 5253 - 2111（内線44573）

FAX：03 - 3581 - 8653

科学技術政策に関するHPアドレスはこちら
<http://www8.cao.go.jp/cstp/s&tmain.html>

「効果的な理解増進事業の実施のための手法開発に関する調査」の 成果概要とその公表について

1. 調査の背景

政府では、第3期科学技術基本計画に基づき、科学技術創造立国を実現するため科学技術の振興に取り組んでいます。一方、科学技術に対する国民の関心の低下や、子どもたちの科学技術・理科離れなどの問題が指摘されており、科学技術の振興を図っていく上での基本的な課題となっています。

このため、最近では、科学博物館などの関係機関だけではなく、大学や研究機関、学会、NPOをはじめとする自主的なグループなどにおいて、様々な形で科学技術理解増進のための活動が行われるようになってきました。

2. 調査の目的と方法

本調査研究は、こうした活動をさらに効果的かつ活発に行うことを目的として、これまでの種々の理解増進事業に係る問題点の分析や先進的な事例の収集、ターゲットに対して最も効果的に事業が行われるようにするためのノウハウの明確化などを行うため、平成18年度科学技術振興調整費を活用し内閣府が民間の調査機関に委託して実施したものです。

3. 調査の成果と公表

以下のWebサイトに掲載いたしました「調査報告書」及び「活動の手引き」の中には、科学技術理解増進活動に取り組む現場において参考となる指摘が数多く含まれていると思いますので、関係府省、地方自治体、科学博物館などの関係機関、大学・研究機関、学会などの各種団体、研究者の方々には、この調査研究の成果を幅広く活用していただき、それぞれの事業の質を高め、科学技術理解増進の向上に結びつけていただきたいと思います。

掲載サイトのアドレス：

<http://www8.cao.go.jp/cstp/s&tsonota/rikaizoushin/rikai.html>

なお、上記Webサイトへは、独立行政法人科学技術振興機構のホームページからもアクセス可能なほか、メールマガジン等でも紹介される予定です。

「効果的な理解増進事業の実施のための手法開発に関する調査」成果報告

政府では、第3期科学技術基本計画に基づき、科学技術の振興に取り組んでいます。一方、科学技術に対する国民の関心の低下や、子どもたちの科学技術・理科離れなどの問題が指摘されており、科学技術の振興を図っていく上での基本的な課題となっています。このため、最近では、科学博物館などの関係機関だけではなく、大学や研究機関、学会、NPOをはじめとする自主的なグループなどにおいて、様々な形で科学技術理解増進のための活動が行われるようになってきました。

本調査研究は、こうした活動をさらに効果的かつ活発に行うことを目的として、平成18年度に内閣府が民間の調査機関に委託して実施したものです。「調査報告書」及び「活動の手引き」の中には、科学技術理解増進活動に取り組む現場において参考となる指摘が数多く含まれていると思いますので、関係の各位におかれては、この調査研究の成果を幅広く活用し、科学技術理解増進の向上に結びつけていただきたいと思います。

調査報告書 [PDF 形式]

- 1. 本調査の概要 【1】
- 2. 理解増進活動事例の調査結果
 - 2.1 理解増進活動の事例収集及び分析評価・問題点の抽出 【2.1】
 - 2.2 調査期間内に行われる理解増進活動
（「科学と音楽の夕べ」）に対する調査・評価 【2.2】(1)、【2.2】(2)
 - 2.3 海外における先進的活動の調査 【2.3】
- 3. 効果的な理解増進活動の検討
 - 3.1 有識者委員会における検討 【3.1】
 - 3.2 効果的な理解増進活動のあり方 【3.2】
- 4. 試行的理解増進事業の検討 【4】

活動の手引き [PDF 形式]

- 1. 効果的な理解増進活動のポイント 【別冊】【1】
- 2. 科学技術を支えるさまざまな手法
 - 2-1 Web サイトでの情報発信 【別冊】【2.1】
 - 2-2 広報誌などの出版物による情報発信 【別冊】【2.2】
 - 2-3 科学番組放送・科学技術映像コンテンツ発信 【別冊】【2.3】
 - 2-4 博物館・科学館・展示見学施設での展示・情報発信 【別冊】【2.4】
 - 2-5 研究施設などの見学プログラム 【別冊】【2.5】
 - 2-6 発表発信型イベント 【別冊】【2.6】
 - 2-7 双方向型イベント 【別冊】【2.7】
 - 2-8 実験観察参加体験型イベント 【別冊】【2.8】
 - 2-9 先進的な科学技術教育 【別冊】【2.9】
 - 2-10 科学技術コンテスト・表彰 【別冊】【2.10】

本件に関するお問い合わせ先

内閣府政策統括官（科学技術政策担当）付
横断的事項担当

TEL 03-5253-2111（内線 44573）

「効果的な理解増進事業の実施のための手法開発に関する調査」概要

別添3

目的： これまでの種々の理解増進事業に係る事業・問題点の分析を通じて、より効果的な事業とするためのポイントを示し、広く参考にするにより、科学技術理解増進の向上に結びつける。

調査研究の流れ：

理解増進活動の事例(国内事例)収集及び分析評価・問題点の抽出

関係府省・機関等による活動事例の調査分析
(Web・サイト文献調査、ヒアリング、アンケート等)

調査期間内に行われる理解増進活動に対する調査・評価

調査期間内に行われた理解増進活動の手法やその評価の分析
(アンケート、ヒアリング等)

海外における先進的活動の調査

海外における先進的活動の調査分析
(Webサイト・文献調査、電子メールによる問い合わせ等)

事例からの知見(効果的手法・問題点等)

有識者委員会でのディスカッション

効果的な理解増進活動の
マニュアル作成

調査分析のとりまとめ

調査結果の要約：

理解増進活動の課題例(国内)

- ・多くの研究機関で理解増進活動が明確に位置づけられず、予算や人員不足が課題となっている。
- ・地方の科学館などにおいても、予算や人員の不足に直面。
- ・娯楽性と科学との関連づけの不足。
- ・事業の評価を事業の改善に結びつけるノウハウの不足。
- ・一過性の体験に終わらせない工夫、リピーターに飽きさせない工夫の難しさ
- ・優れたプログラムを作成するための連携の強化が必要。等

海外における先進的活動調査

- ・英国のサイエンスカフェ・・・ロンドン科学博物館と連携した評価活動。対話型以外の様々なアプローチ。
- ・ピッツバーグ子ども博物館・・・大学と連携して継続的に展示物を改善。
- ・米国エクスポリアムのサイエンススナック・・・身近なもので可能な実験のマニュアルをWebで公開。学校の授業でも活用。
- ・ユトレヒト大学のサイエンスショップ・・・地域社会のニーズに応じて大学生が研究を実施。科学と実社会の関連を強化。
- ・エジンバラの国際サイエンスフェスティバル市の観光計画に科学イベントを位置付け。